

## 令和6年度多摩市立諏訪小学校学校経営方針

多摩丘陵に位置する本校は、多摩ニュータウンへの入居が始まってからしばらくして開校した南諏訪小学校と中諏訪小学校とが平成6年4月に発展的統廃合して誕生し、以来本年度で開校30周年を迎えます。本年度当初は、通常の学級が昨年度比2学級減の12学級と3学級編成の特別支援学級「なかよし学級」、そして特別支援教室「つばさ」で構成されております。児童数は365名です。

昨年度の学校経営方針で、私は2点のことを取り上げています。このことについて、少し述べたいと思います。

### 1 「多摩市子どもみらい会議」への参加から

昨年度、6年生の代表は、諏訪中学校、北諏訪中学校の子供たちと共に多摩市子どもみらい会議に出席しました。今までの地域や環境との関わりを通して学んだことを踏まえながらこれからの多摩市のあり方を考えるに至りました。卒業間際ではありましたが、この会議は6年生が例えば「健幸」都市として多摩市がどのようにあるべきかを考えるきっかけを得る機会となりました。3月になってから、「TAMASHI+Iプロジェクト」を立ち上げ、子供たちは日本一長い遊歩道を歩いて多摩市のよさを再認識するとともに、地域にどのように関わることができるかを考えることができました。

1年間の学習を通して経験した地域との関わりや、このことを踏まえた多摩市の未来について考えたことは、日本教育新聞にも取り上げられ、また千葉正法教育長からは卒業式において賞状を頂戴しました。

昨年度掲げた目標は、「子供たちが主体的に問題を解決し、学んだことを生活にも生かしていくこと、さらにはこれらの活動を新たな思いや願い、問いをもって追求し続ける学びの姿を求める」でした。これは「探究的な学び」の姿である、と位置付けています。正直、このことが全ての学年、全ての教育活動で実現できたわけではありません。しかし、確実に新しい一歩を踏み出すことはできました。私共は、「TAMASHI+Iプロジェクト」を大きな成果と捉え、今年度にも生かしていきたい、と考えています。

### 2 コミュニティ・スクール

本校がコミュニティ・スクールとして新たに教育活動を始めたのは2年前でした。「令和6年度多摩市立諏訪小学校学校経営計画（概要）」にも示してございますが、家庭、地域、そして学校が連携・協働しながら子供たちの成長をよりよいものにしていくために、「諏訪小学校コミュニティ構想」は重要であることを改めて確認する次第です。

P T Aには、例えば昨年冬に星を観る会を開催していただくなど、子供たちの喜びにつながる新たな活動を行っていただき、深く感謝をしています。もちろん、平素の教育活動や学校行事でも多大なるお力添えをいただいております。地域の方々にも、様々な形で本校の教育活動の充実を図るべく御協力いただいております。例えば、本校の農園での栽培活動には多くの御指導をいただいております、子供たちの学習活動が一層深まりました。

改めて本校の教育活動を検討すると、まだまだ工夫の余地は多くあります。これらを具体化するためにも、保護者並びに地域の方々の御理解と御協力を得るために努力したいと考

えています。

さらに、冒頭にも触れましたが、開校30周年を、単にお祝いするだけでなく、学習内容及び学習活動として具体的に位置付け、このことが子供たちの「生きる力」につながっていくようにしていきます。

### 3 教育目標

開校以来掲げられている教育目標は、今申し上げた「生きる力」を子供たちに身に付けさせるためのものです。具体的には、「かしこくー広く学び、考えよう（確かな学力）」「やさしいー共に感じ合い、認め合おう（豊かな人間性）」「たくましくー体をきたえ、元気に過ごそう（健康・体力）」です。

私共は、教育目標の達成のために、特に「探究的な学び」を常に念頭に置きながら教育活動に取り組んでいきます。

#### （1）「かしこく」（確かな学力）（重点目標）

##### ①目指す子供たちの姿

基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、これらを活用しながら、自ら課題を見いだしてこれを解決し、自ら判断したり行動したりするようにする。換言すれば、知識・技能の確実な習得を目指すとともに、ここに止まらず、道具を上手に使うように、知識・技能を問題の解決に活用できるようにしたい。

##### ②具体的な取組

- 1)一人一人の学習が充実するとともに、グループや学級さらには学年などの友達と共に学習活動を行うことを念頭に置く。
- 2)本年度は、教員配置も十分に行われ、算数少数習熟度別指導（3～6年生）を行うことができる。子供たちの実態にできるだけ応じられる指導を行う。
- 3)一昨年度までの成果を踏まえ、国語科では、文章を読み取ったりこのことを基に話し合いをしたりする際に、「子供たちに委ねる」活動を保障するための工夫をする。
- 4)社会・理科・生活では「問題に対する予想や活動への願いを明らかにする→予想を確かめたり願いを叶えたりするための解決活動を行う→気づきや、結果等から性質や特色、法則等を明確にする」という過程を踏まえた学習を展開するようにする。
- 5)低学年では生活、中・高学年では、総合的な学習の時間を軸として、教科等で学んだことを生かした学習活動を行っていく。

#### （2）「やさしく」（豊かな人間性）

##### ①目指す子供たちの姿

自分のことを律しつつ粘り強く最後まで取り組もうとしたり、仲間と協調したりすることを通して自他を認めようとする。特に、何よりも、「いじめは絶対に許さない」という意識を高め、誰もが楽しく学校生活を送れるようにする。

##### ②具体的な取組

- 1)様々な学習場面を通して「いじめ」を未然に防ぐための指導を行う。また、子供たちを丁

寧に観て、いじめにつながる可能性のある場合や実際に起きた場合には、素早くかつ重層的に対応する。

2)特別な教科 道徳では、「考え、議論する」学習を目指し、一人一人の道徳的価値を広げたり深めたりする。

3)通常の学級と特別支援学級との交流活動や共同学習を組み入れ、互いの立場を尊重できるようにする。

4)たてわり班活動を計画的に行い、上学年の子供たちは下学年の子供たちを慈しみ、下学年の子供たちは上学年の子供たちにあこがれをもてるようにする。特に、6年生は計画段階から主体的に取り組めるようにその場を設ける。

5)栽培活動を位置付け、野菜を大切に育てるとともに、6年生はこれを販売することを通して収穫の喜びを味わったり地域とのかかわりの大切さに気付いたりできるようにする。

### (3)「たくましく」(健康・体力)

#### ①目指す子供たちの姿

健康でかつ安全に生活するための知識や技能を身に付けるとともに、これらを生かしながら安心して生活しようとする態度を養う。

#### ②具体的な取組

1)「体力アップ週間」を設け、実態に応じて持久走や縄跳びに継続して取り組めるようにする。

2)「オリンピック・パラリンピックのレガシー」として、多くの人々が「運動をしたい」という欲求をもっていることやこれを充足させるための取組の理解を図る。

3)体育学習の充実を図り、これを基に子供たちが平素から運動に親しめるようにする。

4)養護教諭による指導も組み入れながら、保健指導の充実を図り、子供たちが自身の健康を見つめて維持及び改善を図れるようにする。

## 4 教育活動を支える本校の教育のあり方

### (1)感染症への対応

新型コロナウイルス感染症の扱いが変わり、教育活動も以前の状態を取り戻しつつある一方で、昨年度はインフルエンザ等による2回の学校閉鎖を行わなければならなくなりました。この点を十分に踏まえ、平素より手洗い等の対策を十分に行えるようにします。

### (2)「いじめは絶対に許さない」「不登校への対応」

上記3(2)でも述べましたが、「いじめは絶対に許さない」ことを常に確認します。一方で、「いじめは起こり得る」ことも十分に認識し、平素より子供たちに指導をしながら「未然防止」を心掛け、複数の教員で子供たちをよく見つめながら「早期発見」できるようにし、万が一の場合には「早期対応」を行います。

また、不登校についても適切に対応するように努力します。何よりも、誰もが学校・学年・学級に「居場所」を見出せることに努めます。子供たちが登校を渋るなどの事態に至った場合には、状況を的確に把握しながら、一人一人に応じた対応をしていきます。併せて、スクールカウンセラーとの連携はもちろんのこと、必要に応じて外部機関への働きかけも想定

しておりますので、その際には保護者の方々に御相談申し上げます。

(3) 特別支援教育の充実（一人一人の教育的ニーズに応えるために）

本校には、学習環境や指導形態等を工夫して一人一人に応じた教育を行う特別支援学級「なかよし学級」と、一人一人の教育的ニーズに応じて個別指導や小集団指導を行いながら在籍学級での生活や学習活動等が一層円滑に行えるようにすることを目指す特別支援教室「つばさ」があります。いずれも、本校にとって、個に応じた教育の大切さを常に確認する上でなくてはならない環境と捉えています。保護者の方々には改めて特別支援教育についての御理解を深めていただきながら、教員から御相談をさせていただく場合があることをお含み置きいただきたいと思っております。また、お悩み等がございましたら、ぜひ御相談くださいませ。

また、特色ある教育活動に位置付けているブラスバンド部は、発表する機会を多く得て活動が充実しています。子供たちの意欲を引き出すための一つの活動として今後も大切にしていきたいです。

その他、子供たちは学年段階等に応じてタブレット端末を効果的に活用する等、ICT教育は年々充実しています。また、例えば欠席連絡もフォームの使用に変更をしたように、一層活用しやすくするための方法に改善しようと取り組んでいます。一方で、SNS上でのトラブルが本校でも散見され、「情報モラル」についての指導も一層充実させなければならぬ、という危機感をもっています。この点に関しては、保護者の方々にも十分に御理解をいただきながら各御家庭で御対応いただくようお願いをいたします。

すでに広く言われるようになった「働き方改革」は、教職員の業務の効率化と健康の保持増進などを図るなどの改善を推進していくこととして位置付けられています。保護者の皆様にはぜひ御理解をいただきたく存じます。

しかし、子供たちの活動に関しては、例えば効率化がそのまま合致するとは言えません。大きく変容が見られる場合もありますが、なかなか成果が上がらないこともあるのが子供たちの成長です。また、成果に至るまでには、失敗を繰り返しながらあきらめずに粘り強く取り組むことも求められます。

私は、本校に着任以来“Festina Lente”「ゆっくり急げ」を学校経営計画に位置付けてきました。結果を早急に求めたいときこそ、解決方法を冷静に探りながら焦らずにゆっくりと行いなさい、という意味が込められています。また、「牧歌的」と言い、のんびりと生活する場面が求められていることは言うまでもありません。

広い校庭、冒険の丘、栽培園といった素晴らしい環境を生かし、また開校30周年というこの1年が教育活動の充実の契機となるよう、努力していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年4月

多摩市立諏訪小学校  
校長 齋藤 幸之介